旭ろうさい病院ニュース

病院情報誌　　第 193 号　　令和 7 年 8 月 1 日発刊

発行所：旭ろうさい病院
〒488-8585
尾張旭市平子町北 61 番地
ＴＥＬ　0561-54-3131
ＦＡＸ　0561-52-2426

婦人科のご案内

～閉経後骨粗鬆症について～

婦人科主任部長　　浅井　英和

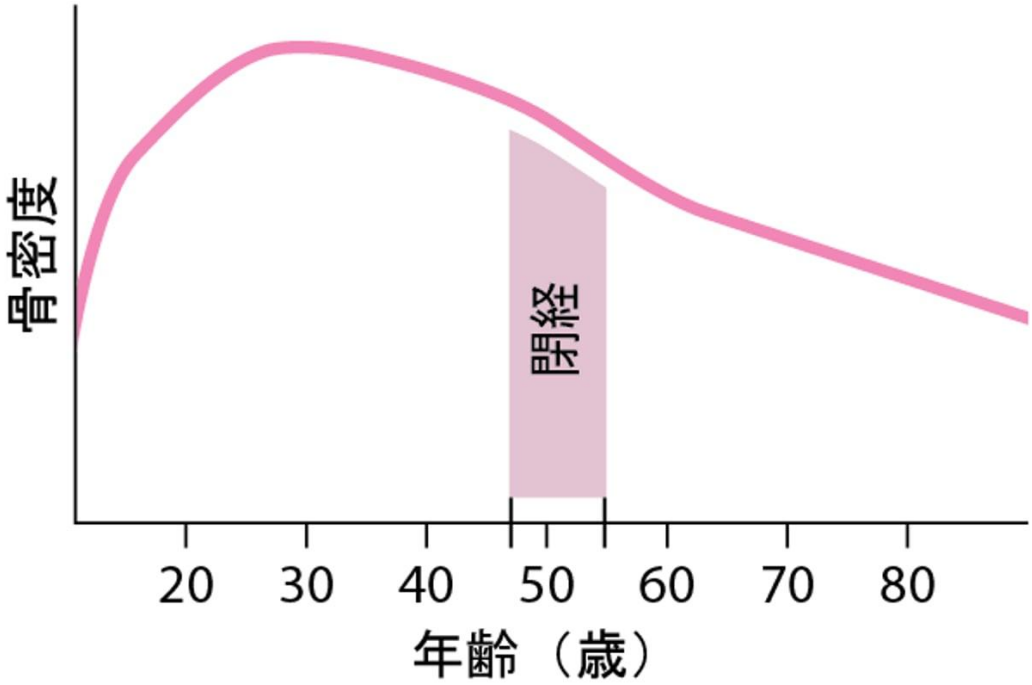
当院婦人科は、2023 年 4 月より常勤医 1 名と、非常勤医 1 名とで外来診療を主に従事させていただいております。

当院での診療

＊骨粗鬆症

高齢化社会にともない、閉経後からの身体の変化による疾患も増えてきます。閉経女性は急激に骨塩量が減少する閉経後骨粗鬆症が本人の気づかないうちに発症していることが多いと言われています。平均寿命が 90 歳を越えようとしているわが国では、将来の骨折の誘因となり、大きな問題となってきます。特に脊椎圧迫骨折、大腿骨頚部骨折による ADL の低下は寝たきり、またそれに伴う合併により、同時期の悪性腫瘍の 5 年生存率よりも悪く、寿命の短縮

に大きく影響するとされています。当院で行なっている骨塩定量測定は DXA 法で他の方法に比べ測定精度が高く、簡便で、測定に用いる X 線も極めて少ないため安全で有用な検査方法です。また骨代謝マーカーの測定、定期的な骨塩定量測定をすることで、薬剤の使用、使用期間の考慮、エビデンスに則した、より有効な治療に努めております。各クリニック等で治療されている先生方には当院の DXA 法での骨塩定量測定をお勧めしております。ご気軽に相談ください。



＊婦人科悪性腫瘍の早期発見

当院では子宮頸部細胞診に液状化細胞診（liquid-bacedcytology:LBC 法）を採用しており、より精度の高い細胞診を行なっています。判定不能を繰り返す方等、お困りの方は当院への紹介もご検討ください。また閉経期あたりからの不正性器出血、内膜肥厚に対し、吸引法による子宮内膜組織診を行なっています。子宮口が狭く、痛み等での検査困難等で、お困りの際はご遠慮なくご相談下さい。また当院には CT、MRI があり、単純および造影の検査ができます。卵巣がん、子宮肉腫等の悪性腫瘍の診断に有用ですのでご相談ください。

コルポスコープ及び子宮頸部の生検は、2024 年 5 月より施行しています。すでに 10 例以上の検査がされており、子宮頸部腺がんと診断され、腫瘍専門施設での根治手術が無事施行されたとの連絡もいただいております。

なお、ヒステロスコープによる精密検査は準備中です。ご迷惑をおかけしております。準備出来次第お知らせさせていただきます。

＊更年期障害

以前より悪性腫瘍手術による閉経前での卵巣欠落症候群の治療も長年治療してまいりました。HRT、漢方薬治療による、身体および心のケアも行なっていきます。（ただし、うつ病等の精神疾患に及んだ方には心療内科、メンタル科の紹介をお勧めします。）

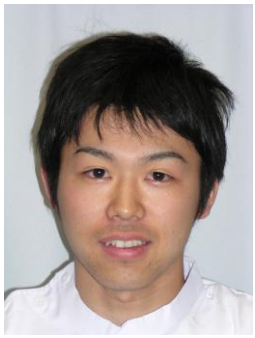
＊月経困難症、過多月経

若年者の月経困難症は、学力の低下、貧血や内膜症発生にも関与しているとの報告がされています。小児科と連携し、LEP 等の導入をお勧めしています。場合によっては画像診断による卵巣腫瘍等の器質的疾患の鑑別診断も大切と考えております。40 歳代以降は子宮内膜ポリープ、子宮筋腫（特に粘膜下筋腫）、子宮腺筋症、子宮体癌が発生している場合があり、ホルモン療法中の患者さんの中では、突然の多量な出血で輸血に至る症例が多数報告されています。まずは細胞診、組織診、画像診断（怪しければ MRI がベターです）等での治療前精査が大切と考えます。ご相談いただければ幸いです。これらが明らかな場合、クリニックでの薬物療法、子宮内黄体ホルモン放出システム（ミレーナ）を安全に継続していただけると思います。

幸い当院は、CT、MRI、骨塩定量測定と設備が整っています。ご気軽にご相談いただければ幸いです。

心臓リハビリテーション

中央リハビリテーション部　　中根　靖隆



心臓リハビリテーション

心臓リハビリテーションとは、運動療法のみを示す言葉ではありません。患者自身やご家族の方への教育、カウンセリング、栄養食事指導、服薬指導、生活指導、禁煙指導、ストレスコントロール、職業復帰訓練などを含めた包括的なアプローチを表しています。

心大血管リハビリテーションの適応

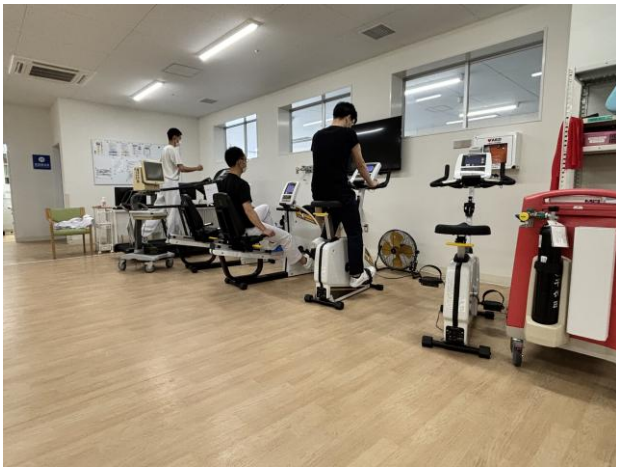
心筋梗塞や狭心症発作などの冠動脈疾患、大動脈解離などの大血管疾患、又はその手術後の患者、また慢性心不全、閉塞性動脈硬化症など慢性心大血管疾患により一定以上の呼吸循環器機能の低下、日常生活能力の低下を来している場合に適応とされます。

当院の心臓リハビリテーションについて

当院では主に入院患者を対象としてリハビリテーションを実施しています。理学療法部門における対象患者のうち、約 1 割が心臓リハビリテーションを行っており、そのうち 8 割以上は心不全に該当しています。年齢層は 80 歳以上が 7 割を超え、元々介護が必要な方、歩行が困難な方、運動器疾患や呼吸器疾患など抱えている方も少なくありません。

リハビリテーション室

心臓リハビリテーションは「心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン」に基づいて実施します。心不全に対しては急性期離床プログラムに沿い離床を行い、６分間歩行試験において 300m程度歩行が可能となった後、エアロバイクなど有酸素運動を中心とした運動療法へ移行しています。しかし、先に述べたように元々介護が必要な方、歩行が十分にできない方もみえます。このような高齢心不全の方に対しては、ADL や QOL 向上を目的にレジスタンストレーニングに加え、バランス訓練、ADL 訓練を多く行っています。実施の際は、より安全性に留意し、転倒予防、並びに自宅での運動継続の観点を踏まえて指導しております。



リハビリテーション室 利用時の様子

また多職種によるカンファレンスを通して、情報や課題を共有し、日々の臨床に役立てることに加え、退院前には運動指導、服薬指導、栄養食事指導、生活指導を行っています。

おわりに

心臓リハビリテーションは多職種による包括的なアプローチが求められます。今後も患者さんに寄り添い、多職種が協力し信頼される医療が提供できるよう取り組んでまいります。

カンファレンス風景

地域医療連携室よりお知らせ

水曜午後の脊椎外来について

愛知医科大学病院 疼痛緩和外科・いたみセンターの井上 真輔先生が担当していましたが、７月からは愛知医科大学病院の池本 竜則先生（第１週）、平澤 敦彦先生（第３週）、岩尾 典充先生（第５週）が担当いたします。

脊椎外来のご紹介につきましては、水曜午後にご予約ください。

地域医療連携室　お盆休業のご案内

誠に勝手ながら、当院の地域医療連携室は下記日程を休業とさせていただきます。

令和７年８月16日（土）

休業期間中にいただいた FAX への返信は、**翌営業日の８月１８日（月）より順次対応**させていただきます。

なお、救急外来は平常通り対応を行っておりますので、内科・外科系のホットラインをご利用ください。

ご不便をおかけしますが、何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

●地域医療連携室　連絡先●

フリーダイヤル　直通電話　0120-53-6196　（平日 8：15～19：00、 土曜日 9：00～12：00）

F A X　0120-53-8459